

大学生のアパシー傾向と強迫性格および内的統制感との関連について

A33066 小関信義

希望に燃えて大学に進学したのであるが、大学生の本業である学問に対する意欲がなくなり、それが一過的な怠学とは異なるとなれば捨て置けない問題である。このような Student Apathy(以下;SA)研究は、大学保健機関における丸井(1967)の「意欲減退学生」として、紹介したことに始まる。以後、笠原によって体系的に論じられるが、SA の一要因とされる強迫的完全主義性性格(笠原, 1984a)は、臨床学的事例研究において、頻りに指摘されながらも実証研究では実証に至っていない。

そこで、本研究では SA を「精神病の無気力とは異なり、心理的原因で主として学生の本業である学問に対して意欲の減退を示すこと」と定義し、第1に、アパシー傾向測定尺度、および強迫性格尺度、Locus of Control 尺度の下位尺度を、性差が予想されることを考慮し、男女別に比較検討する。第2に、これまで臨床学的事例研究において指摘されているSAと強迫性格との関連性を明確化することを目的とした。

研究の方法は、アパシー傾向測定尺度(鉄島, 1993)、強迫性格尺度(関山, 2001a)、Locus of Control 尺度(鎌原ら, 1982)の3尺度を講義時間内に集合形式で実施した。千葉県内の私立大学の大学生 390 名(男性:180 名 女性:210 名)を対象とした。

因子分析の結果、「授業からの退却」「学業からの退却」「学生生活からの退却」「完全追求」「良心性」「頑固」「優柔不断」「内的統制感」「外的統制感」の因子が抽出された。各因子得点における因子間の相関分析では、アパシー傾向と強迫性格との間に有意な相関はみられなかった。以下に対象者全体の因子相関分析結果を示す。

表 相関分析結果(全体)

	M	SD	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
①授業からの退却	2.2	2.31	-								
②学業からの退却	1.43	1.93	0.21	-							
③学生生活からの退却	1.77	2.47	0.22	0.26	-						
④完全追求	0.78	1.14	-0.02	0.02	-0.04	-					
⑤良心性	0.33	1.63	-0.10	0.04	-0.02	0.02	-				
⑥頑固	0.11	1.83	0.01	-0.01	0.09	-0.07	-0.04	-			
⑦優柔不断	5.05	2.09	0.08	-0.02	0.00	0.06	-0.01	-0.08			
⑧内的統制感	2.29	1.77	0.01	0.00	-0.07	-0.08	0.03	0.08	-0.03	-	
⑨外的統制感	7.24	2.33	-0.06	-0.18	-0.14	0.03	0.09	-0.01	-0.01	-0.01	-

重回帰分析の結果は、対象者全体、男子、女子ともに SA 傾向を左右する強迫性格因子および内的統制感因子はみられなかった。アパシー傾向と強迫性格の関連性を明確化することが目的であったが、関連性は表れない結果となった。これは、学業領域から撤退するアパシー学生の中には強迫性格を有しない無気力学生も含まれるためであると考えられる。このことから、SA は強迫的完全主義性

性格を有する学生が挫折体験を通して無気力を呈するものと推察される。